

消防団の管轄区域・分団数



消防団長と各方面隊長を務める副団長の皆さん

平成15年6月6日、野田市と関宿町との合併により、新「野田市」が誕生し、常備・非常備消防ともに統一が図られ、今日の消防体制が出来上がりました。

しかし、災害発生時における消防団の重要性は、ますます高まっているにも関わらず、消防団員数は年々減少傾向にあります。現在の団員は、定数860人に対して742人となっており、団員の増員が急務であり、大きな課題となっています。

● 現在の野田市消防団

消防団は今も昔も民間の有志からなる義勇消防隊であり、みな生業を他に持っているのが通常です。消防組が発足した明治から戦前にかけて、消防組員は地元で働いている人がほとんどでしたが、働き方の多様化という社会構造の変化に伴い、現在の市の消防団では必ずしも地元で働いている人ばかりではなく、市外に勤めている人も多くなりました。

近年では災害用無線受信機などの装備の充実により出勤回数もさらに

増え、平成26年度は75回の火災での出勤がありました。地域の防災における消防団の重要性は今も昔も変わりないと言えますが、市の消防団員の数は年々減少傾向にあります。

市の消防団条例による団員の定員は860人ですが、平成27年3月1日現在で市の消防団の団員数は742人となっています。平成8年から26年までの野田市人口と消防団員数の変化をみると、人口は増加しているにも関わらず、消防団員の数は減り続けていることがわかります。

この減少は、地区別にみても同様で、特に南部地区や北部地区は人口